

5 その他・寄附（とおかまち応援寄付金）

（単位：円）

事業名	事業内容	寄附額
とおかまち応援寄付金事業（災害等の対策）	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を目的に寄附をいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度寄附件数 2,062 ・令和2年度寄附額 49,123,700 ・令和3年度寄附件数 2,005 ・令和3年度寄附額 35,032,000 ・令和4年度寄附件数 1,677 ・令和4年度寄附額 29,767,000 <p>（所管課：企画政策課）</p>	113,922,700 （3年計）

6 アフターコロナ・新しい生活様式に対応した取り組み

新型コロナウイルス感染症対策として、国や県との連携はもとより、医療・介護・福祉・保健・産業・教育・消防など、関係する多方面の方々との協力しながら、「オール十日町」体制のもとで未曾有のパンデミックに立ち向かってきました。

当市における新型コロナウイルス感染症との闘いは、令和2年1月から3年以上に及びました。市民・関係者の皆様からは長期にわたり、「感染防止策の励行」や「ワクチン接種」「経済活動や往来の制限」「イベントの中止」などに、多大なご理解とご協力をいただきました。この間、私たちは、感染対策として、職場・学校・消費現場など、様々な場面で「新たな生活様式」を取り入れてきました。職場では、3密（密閉・密集・密接）を回避するため、「リモートワーク」や「WEB会議」の導入が広がりました。学校では、高速通信とタブレット端末、グループウェア等を駆使した新たな学びの環境が整いました。消費活動では、電子決済や通販サイトの利用拡大、店舗での非接触型支払システム等が普及しました。市役所窓口で行っていた各種証明の発行手続きや納税手続きも、コンビニエンスストアの端末や携帯端末から行えるようになりました。このように、新型コロナウイルス感染症を乗り越える過程で、身の回りでは、進化したデジタル技術を浸透させ、人々の生活をより良いものへと変革する「DX」（デジタルトランスフォーメーション）の重要性が高まってきています。

新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザと同等の「5類感染症」に引き下げられた令和5年5月以降も、新しい働き方の進展や首都圏在住者等の地方生活への関心は一段と高まっています。加えて、入国制限によって一旦途絶えた、インバウンド（訪日外国人）の復活は、著しいものがあります。こうした潮流をしっかりと捉え、当市が進める各分野の施策についてもコロナ禍によって疲弊した中小小売業や地場産業の復興をはじめ、縮小や延期を余儀なくされたイベント等の「新たな生活様式」に沿った復活を進めながら、高速通信環境の活用やデジタル化を加速させることで、将来起こり得る様々なリスクへの対処や、当市の特徴を生かしたまちづくりを推進していきます。